

「スクリーンツーリズム&観光ICTシンポジウム」を開催



シンポジウム開催挨拶



富山県知事挨拶



基調講演 阿部 氏



パネルディスカッション

北陸総合通信局（局長：齊藤 一雅）は、北陸情報通信協議会（会長：永原功 北陸経済連合会会長）との共催により、「スクリーンツーリズム&観光ICTシンポジウム」を8月2日に富山市で開催し、約110名の参加がありました。

本シンポジウムは、近年注目されている「スクリーンツーリズム」を観光振興や地域振興に生かす方策などについて、講演やディスカッションを通じて、自治体関係者、観光関係者、ICT関係者の方々に参考とさせていただくために開催したものです。

まず、富山県内をロケ地とし撮影した映画「RAILWAYS」第2弾の製作総指揮をとった阿部秀司氏から「地域振興における映画の役割」と題し基調講演をしていただき、「地域振興にはリピーターを増やす努力、もてなしの向上などソフト面の充実が必要である」と話されました。

「スクリーンツーリズムと観光ICTの展望」と題したパネルディスカッションでは、富山大学教授 山西潤一氏がコーディネーターをつとめ、阿部氏をはじめ、金沢星稜大学大学院教授 大藪多可志氏からは、日本内外の観光客との係わり方等、氷見市藪田自治振興会会長 山崎健氏からは、映画「ほしのふるまち」のロケ地誘致活動や地元の人たちとロケ隊との交流、(株)ピーエーワークス専務取締役 菊池宣広氏からは、アニメ「true tears」の舞台となった城端町と多くのファンとの係わりを例に、アニメツーリズムの実例と可能性を紹介いただきました。

また、地域及び観光客が自ら情報発信し、その情報が広がっていくことが観光地を盛り上げるきっかけとなること、ICTが地域振興に必要不可欠の手段となりつつあることなどについても語り合っていました。

問い合わせ先：情報通信部情報通信振興室 076-233-4430